

日本海洋学会幹事会 5月1日

日本海洋学会 2017年度第1回幹事会議事録

日時：2017年5月1日 13:30~17:58

場所：パレスサイドビル マイナビルーム2F・U

出席者：日比谷会長、神田副会長、安藤、石坂、伊藤、市川、岡、小埜、川合、北出、齊藤、東塚、安田、安中、山田、事務局（毎日学術フォーラム；小野、平坂）

会議に先立ち日比谷会長から新年度の所信表明があった。

議題

1. 議事録承認（前任伊藤幹事）

項目番号の割り振りについて適切に修正することとし、承認された。

2. 審議事項

(1) 入退会について（東塚幹事）

2017年2月~3月の入会者（1名）を承認した。会費未納による除籍者について、連絡がつく場合は退会の意思を確認することとなった。2017年3月末の会員数は、1593名。

(2) 会費3年未納者について（東塚幹事）

会費3年未納者（75名）について確認が行われた。未納者には積極的に連絡し、支払いを促すこととなった。

(3) シンポジウムの後援・協賛等について（東塚幹事）

後援・協賛等について3件の依頼があり、承認された。

(4) 公募・推薦等の依頼（東塚幹事）

公募・推薦について7件の依頼があり、学会メーリングリストにて配信した旨、報告があった。

(5) 2016年度事業報告について（東塚幹事）

2016年度事業報告を確認し、一部修正のうえ承認した。

(6) 2017年度事業計画について（東塚幹事）

2017年度事業計画を確認し、一部修正のうえ承認した。

(7) 2016年度決算書及び2017年度予算案（齊藤幹事）

2016年度決算報告があった。WEBシステム開発諸経費と会員名簿発行のため、通常年度より支出が多かったことが説明された。決算報告について、表題下月日の削除と支出の部の摘要欄の月を修正する。宇野木基金（4,600,466円）を定期預金から普通預金へ移したことにに関して、貸借対照表と財産目録における記載を分かりやすく整理することとした。

2017年度予算案について説明があった。

財政健全化に向け、支出を抑えるため、出版費の削減や在庫バックナンバーの保管倉庫経費について議論された。保管しているバックナンバーの処分については、庶務幹事が

検討することとなった。また、未納会員、広告収入減少、会員減少等の問題点が指摘された。冊子体の廃止による経費削減について議論があり、ニュースレターについては、JOのPDF化の代わりに紙媒体とした経緯があるため冊子体を継続すべきであるとの意見が出た。また、JOの紙媒体廃止の是非について今後議論していくこととなった。

(8) 受賞記念講演座長について (東塚幹事)

受賞記念講演の座長について、日本海洋学会賞は花輪公雄会員、岡田賞は山形俊男会員と久万健志会員が提案され、承認された。

(9) 会則・細則の変更について (東塚幹事)

幹事職務の増改にあわせ幹事を13名以内から14名以内にすること、編集委員長3人を会長委嘱の幹事とするため選挙で選ぶ幹事は8名とすること、JOの編集委員は会員に限定しないことという意向に合わせ、関連する会則を変更する原案について説明があった。議論の末、34条について「・・・各編集委員長は会則第14条第4項により委嘱される。」と修正することで、会則の施行日を5月22日として提案どおり承認された。また、宇田賞細則の第一条の「啓蒙」を「啓発」と変更することについて、施行日を5月22日として提案通り承認された。

(10) 2017年度秋季大会 プログラム編成委員会設置について (山田幹事)

山田幹事を委員長とし、ほかに幹事会から小埜幹事が加わることが承認された。

(11) 2018年以降の研究発表大会について (山田幹事)

2018年度秋季大会および2019年度秋季大会の開催地・機関が承認された。5月の評議員会および総会において、会長より、2018年度以降の春季大会について発議することとなった。

(12) 海の研究編集委員会委員の交代について (市川幹事)

川幡穂高会員の辞任にともない、その後任として関宰会員に委員を委嘱したい旨の提案があり、承認された。

(13) 春季評議員会および通常総会資料について (東塚幹事)

議事次第、資料内容について確認が行われた。審議事項の順番と審議事項名称を変更した上で承認した。

(14) その他 (東塚幹事)

2017年度春の総会について、議長は例年次期学会開催地大会実行委員長が務める慣習となっているが、花輪会員がJpGUに参加しないため、推薦を待つことになった。

JO、海の研究、JOSニュースレターの編集委員長を会長からの幹事委嘱した場合の取り扱いが複雑になるので、先に各編集委員長を幹事に任命することを評議員会のメール審議で承認を受け、各編集委員長を候補者から除いた後、幹事の選挙を行うことにより対応することとなった。

3. 報告事項

(1) 会長

4月14日に提出したロードマップ2017に関して進捗報告があった。

(2) 副会長

学界関連情報について、今回から評議員会と総会で資料として配布した上で、同じものをニュースレターに掲載する。これまでは、評議員会直前の追加情報の依頼を含め、年4回の情報提供依頼をしていたが、年2回に変更する。

(3) 庶務（東塚幹事）

4月4日~14日に実施された評議員会のメール審議について、会長委嘱幹事、ならびに学会賞・岡田賞・宇田賞受賞候補者選考委員会、論文賞受賞候補者選考委員会、環境科学賞受賞候補者選考委員会の委員選出について、承認された旨報告があった。

(4) 研究発表（山田幹事）

2017年度春季大会の各種会議の会場について確定した旨の報告があった。

2017年度秋季大会（2017年10月13~17日、仙台国際センター）の準備状況について報告があった。主だったものとしては、4月12日に大会事務局よりセッション提案募集、幹事会よりシンポジウム・ナイトセッション等の募集があり、両方の提案の締め切りが5月12日となっている。これらの案内は学会メーリングリストに投稿し、学会ウェブページへ掲載した。

市川幹事より、次回からセッション提案の分野として「教育・アウトリーチ」を入れてほしいとの提案があった。

(5) 編集

1) JO（石坂幹事）

①JOの発行状況 Vol.71 (3) ~Vol.73 (1)、②JO投稿・受理状況、③特別セッション号の論文編集作業について、④2015年のJournal of Oceanographyのインパクトファクターについて、⑤新編集委員、⑥掲載料、⑦Open Access ArticlesとSharable Link、⑧剽窃、⑨その他について報告があった。

事務局から追加情報として、冊子体の送付先について、個人宛：27件、賛助会員宛：10件、団体会員宛：55件、寄贈：4件であることが報告された。

2) 海の研究（市川幹事）

①海の研究の発行状況、②海の研究の準備状況、③検討中の内容（掲載論文ガイド、投稿規定および編集手続きの修正およびNII-ELS廃止後の対応）について、報告があった。

3) JOS ニュースレター（安藤幹事）

①JOS ニュースレター発行状況、②JOS ニュースレター発行準備状況、③編集員、④その他印刷数について、報告があった。

日本海洋学会幹事会 5月1日

(6) 海洋観測ガイドライン編集委員会 (小笠幹事)

メールによる会議を行った。今年度中に完成させる旨、報告があった。

(7) 海洋環境問題研究会 (小笠幹事)

会長が速水祐一会員から梅澤有会員へ交代した旨、報告があった。

(8) 教育問題研究会 (安中幹事)

2016年度活動報告および2017年度活動計画についての報告があった。

一家に一枚ポスターの進捗状況について、下絵はそろっている旨説明があった。また、講師派遣事業については、講師39名登録で、去年実績6件、本年度現在実施済み2件であること、近場で知っている講師に依頼するケースが多いことが報告された。

(9) 日本科学振興財団 (日比谷会長)

練習船、研究船の位置づけについて話があった旨、報告がなされた。

(10) 震災対応 (北出幹事・小笠幹事)

伊藤幹事から次期海洋学会大会実行委員会事務局長の須賀会員へ、シンポジウムの開催についてメールで打診した。覧会員らの提案により、震災復興関係の助成金により海洋よりも水産関係で多くの成果が出ていることから、海洋だけでなく水産分野も含めた震災復興関係のシンポジウムの計画・準備がされている旨、報告があった。

(11) 水産・海洋科学研究連絡協議会 (伊藤幹事)

5月19日に第1回水産・海洋科学研究連絡協議会が開催される予定で、マスタープランおよびロードマップについての説明を行う予定であることが報告された。

(12) 若手支援 (神田副会長)

若手との懇談会は春(JpGU)には実施しないが、秋季大会では予定していること、若手集会助成は予算案と事業計画が総会で承認されてから(5月下旬から)申し込みを受け付けることなどの報告があった。

次回幹事会：未定